

きなはれ だより

2025・12
NO.7



2025年9月30日 第1回ピザ会

巻頭言「原始古代から魂が脈々と繋がってる感触がいいなあ・・・」

NPO 法人きなはれ理事 佐橋克彦氏（北星学園大学 社会福祉学部 社会福祉学科 教授）インタビュー

🧬 R6年9月24日 北星学園大学



きなはれの魅力：3つの性格の違う事業所が、1つの目標を持って役割を果たしている。バラバラじゃなくお互いの良さを生かしながらうまく回してるというのが好きなんです。「とねっと」は「とねっと」、「ヨベル」は「ヨベル」という感じじゃなくて、最終的に利用者も職員も理事の人達も「きなはれ」っていうものを大事にしている。私はそんな印象を抱いていてすごくいいなと思っている。介護保険が始まってもう24年。障害者領域でも2003年から始まって20年。その間、「きなはれ」は色々困難にぶち当たりつつも、皆さんの知恵と協力で乗り越えてきたと思います。それは本当に私の宝物です。

準市場化：「競争させれば質が上がる」というのは一種の幻想だと思うんです。競争させた結果、いろんな変なことが出てきている。潰れるところも出てきている。だから私の学問的な話をすれば、**競争ってそんなにプラスの面ばかりじゃないし、どうしても底辺を作ってしまう。それは福祉の世界には許されないのではないかなと思う。**

少しでも成長できることを保証する：障がい福祉領域の分野だと結構昔から言われていて「発達保証」という言葉があるんです。要するに障がいを持つての方達が我々と同じ生活ができるようになるっていうことではなくて、**人間が持っている可能性を少しでも広げる**っていうのが発達ですよ。それを**周りの人や本人の努力で少しでも前に進む**。それが「発達保証」という概念で、1970年代位から言われている話だったかなと思います。

制度・政策：基本的に今の福祉政策、福祉制度には一貫して批判的な立場で研究しています。実は日本の福祉って、第2次世界大戦が終わった後から始まったんだけど、今まで1度もヨーロッパの水準に追いついたことがない。**国の本音っていうのは、制度・政策に透けて見える**んです。そこを論文にしたりしてまとめています。

地域共生社会：理想的には素晴らしいですね。でもそれ本当なの？**そんなにうまくいくの？**っていう疑問が常にあります。地方がどんどん衰退して弱ってきているところに地域共生っていうのは、地方のことは地方でやりなさいっていう話なんです。それは当たり前のように聞こえるけど、国の責任や役割をどう考えるのっていう疑問が出てきます。今の国の考え方はとりあえずお金だけ出しとけばいいだろうって。例えば介護だったら介護報酬、障がいだったら支援費出しとけばいいだろうとか…。でもサービスの質や職員配置だとかはまだまだ手薄で、それを地域の人達の助け合いでカバーして下さいみたいな。何故公的な福祉の仕組みができたかって言うと、地域での助け合いが機能しないからできたんです。今その逆をいってしまっている。それをさも新しいことのように言ってるんじゃないかなと私は思うんです。長い歴史を自己責任に回帰している感じが見えてきます。

きなはれとの関わり：重泉君は大学の同期で、彼が卒業した時に最初のヨベルに行ったんです。アパートの2階にあったヨベルです。一時期札幌から離れていたことがあって、戻ってきた時に**重泉君に会いたい**なと思って。もう30年以上の付き合いなんですけど、すごく頑張ってる。「今度きなはれを立ち上げるんだけどちょっとやってみない？」っていう誘いを受けたのが関わるようになった入口です。あの頃はヨベルが小規模作業所と呼ばれていて、やっぱり法人格欲しいよねっていうのできなはれがスタートしました。そういう訳で立ち上げの時から理事でした。

重泉君：重泉君がどう思うか知らないけど、私としては、重泉君は**非常に大事な唯一無二の友達**です。同じ大学でバイト仲間でもありました。飲みに行くともう福祉の議論が始まって。多分、2人とも結構いいこと言ってるはずなんですけど、残念ながら飲みすぎて覚えてなくて。そういうのがもう何回もありました。重泉君のいいところは、筋が通ってる。勉強家。人としての付き合いをする上では、人に対する思いやりとかも兼ね備えている。そこまで言うと言い過ぎかもしれませんが、本当に唯一気の合う友達、仲間ですね。理屈立てるのもうまいんだけど、そこからの頑固さが中々よくって。大体テーマは福祉とは何か。ずっと変わってないと思う。

理事会：理事会での話し合いがすごく民主的だと思っています。中には理事長が独断でなんでも決めちゃうところがあるみたいですけど、**うちはみんなで頭を悩ませて議論できる**ところがすごい良さだと思います。結果、誤った方向には進んでないから今まで続いているということじゃないかな。そういう運営方針なので、利用者の方にも安心して利用してほしいなって思います。楽しんで金儲けしようなんてことを言い出す人はいません（笑）。

お気に入り：遠軽の方の白滝に大量の黒曜石が出てきて、国宝指定されたから1泊2日のバスツアーで見に行きました。北海道の国宝は2つしかなくて、1つが函館の南茅部の土偶。もう1つが今回国宝指定を受けた北海道白滝遺跡群出土品です。大きい黒曜石を割って割って矢じりの形に切り出すのですが、その過程で多数の細かい破片が排出されるんです。その石の破片を再び寄せ集めて1つの塊に戻して復元したっていうのがすごいらしいです。細かく砕けた破片に全て番号を振って番号順にくっつけて元の形に復元する。石垣みたいなんです。矢を1本作るにも昔の人は大変だな…そういう生活とかを想像するのがなんか良いなと。



縄文とか原始古代から魂が脈々と繋がってる感触がいいなあ・・・。

福祉とは：恩師からは福祉とは何かっていう研究はするなって言われたんです。それは答えが出ないからっていうのが言い分です。でもいつかせつかくこの職業に就けたからやってみたいなと。誰も多分福祉とは何かって説明できてないはずですよ。だから僕は、「ぬえ」って妖怪（頭が猿で体が狼、足がトラでしっぽがヘビ）に例えて社会福祉とは何っていうのを学生に教えています。いろんな学問の寄せ集めとして考えると非常に不完全な学問。なんか人生そのもの。だから重泉さんと話しているといつまで経っても終わらない。

きなはれの未来：どうだろう？ワンマンでやれば、代替わりともに方針変更ってあり得ると思うけど。もし上の方が抜けてもそんなに大きな方向転換はないんじゃないでしょうかね。**私は心配してないんです**。どの理事の方も信頼できる。



『おせち』の話 NPO 法人きなはれ理事長 廣田 英夫

子供の頃、おせちには美味しかったという思い出はないですね。正月はお雑煮以外の料理をしなくて良いとか、お店がどこも休みなので、調理済みで日持ちするものを食べるというぐらいにしか考えていませんでした。

日本料理を勉強するようになって、一つ一つの意味を知ることになりました。料理には季節感が大切ですが、おせちにはそれぞれに旬の食材を使う必然性があります。昆布、身欠きニシン、数の子、ごまめ、黒豆、ごぼう、蓮根、栗、さつまいも、クワイ、海老芋、百合根などが12月に入るとおせちの時期に合わせて流通します。

どの食材にも、決まった下ごしらえと調理の仕方があります。この技術はたとえ年1回でも毎年繰り返す事で忘れられる事なく伝承されていきます。この頃私が考えていることは、失敗なくてできてわかりやすいレシピを残せないかということです。

2名様用 12,000円 (消費税込・送料別)

お届け日 道外：12月31日
道内：12月30日・12月31日

お申込締切：12月15日

お申し込みは右のQRコードにて
お願いします。



お問合せ：白石障がい者就労センタースカイ コミュニティーキッチンふい〜る おせち係 TEL 011-820-1551 / mail osechi.kinahare@gmail.com



自分がスカイのセンター長を行う日が来ることは、当初、正直想定していませんでした。その当時、ヨベルが大変な時期であった事情もあり、常盤野さんがスカイとヨベルの業務を兼任されていました。その時期の年度替りに常盤野さんから「ヨベルに専任したい」という意向が伝えられました。自分は最も在籍年数が長かったことや常盤野さんの仕事を近くで見えてきたということから「スカイはお願いします」「想いは置いていきます」「2週間で返事を下さい」と言われたと記憶しています…。記憶が曖昧なところもありますが、僕がお願いして猶予期間を2週間に伸ばしてもらったのかもしれない。

選択肢はあるようでないというのが正直な気持ちでした。僕は2週間を「1回現実逃避をする」「覚悟を決める」「決断を固める」という使い方をしたかったのだと思います。そのためにとりあえず、温泉に行きました。何も考えずに温泉に行き状況を顧みると、長く勤めていたのは僕、そして吉野さん、あとは勤務年数の浅いスタッフの方々でしたので「やらねばならないかな…」という感じでやることに決めましたが、みんな心配だろうなと思いました。常盤野さんを慕っていたスタッフやメンバーが沢山いて、その人達の気持ちを考えると常盤野さんにもっとじっくりサポートをして欲しかったらうなと…それがいきなり西町に変わっちゃった時にどうだろうなという。ぽっかり空くものは大きくなって思いました。

「心配させちゃいけない」ということが最初に抱いた感情でした。闇雲にやってみましたが、精神的には閉鎖的になって行きました。こんなこと相談しちゃいけないと考える一方で、今迄できていたこともできない、変な結果が出始めました。独りで抱え込み「そこに行くまでに相談できたんじゃないの?」と言われることが増えました。もう少し考えて頑張ったら独りでできるんじゃないかと…できるスキルもないのにやるんです。だからできない。落ち込んで人に聞けばいいのにそれができなかった。この程度で聞くべきじゃないって…でも本当はその程度が聞くべきことだったり。「ここで責任を負うからには自分でやるものだ」「きっと先人達はやってきたんだ」…確認もしないで自分で答えを出してしまう感じがありました。

そんな状態が長く続きましたが、最近ほんの少しだけその状況から脱したような感があります。きっかけはやはり常盤野さん、重泉さん、理事会の存在でした。今年の春先、色々うまくいかないと思うことが重なり、周りに相談できない状態が続いたりしました。それによって事業所内での支援や外と繋がることができなくなり、事業所運営そのものが本当に上手くいかなかったんです。常盤野さんに色々話を聞いてもらった時に言われたのは「私とあなたは対等ではなく永遠に上司と部下です」というシンプルな言葉でした。責任者になるということは、あらゆる場面で振る舞いを考えたり、自分で切り開いていかなければならないというように勝手に思い込んでいたのです。そして教えるを乞うという基本的なことができていることに恥ずかしながら気が付いたのです。

3月、4月あたりは絶望的な気持ちが続きました。今は時間が経過したからこんな風に言えるのだと思います。少しずつ色んなことを相談したり聞くようにもしてもらいましたし、仕組みそのものも変えてみました。スカイでの活動内容や支援について定期的に助言を頂けることもありがたく思います。大変だったのは、2年間の中で利用者の方を就職に出していくための支援をしていくのですが、うまくいかない原因が自分達側にもあることに中々気づけなかったことです。こちら側の内部事情が原因で良くないアプローチになってしまい、利用者支援に影響していくことに…。自分達を見つめ直すってところが疎かになっていました。何か問題が身近にあるという感じはあっても、それでも気づけないことがあったと思います。気づくためには、やはり外からの客観的な視点が必要でした。俯瞰するということで内在する問題に目を向けられるようになり、自分達自身を振り返ることができるようになってきたと感じています。

自分としては絶対に「就労支援」っていう訳でもないんです。福祉の仕事という風に大きく捉えると、入口は介護で高齢者の方のお世話をすることでした。若い時には色んなことを知った方が良くと思い、興味を広げ障がい福祉を知りました。ボランティアなど色々経験していく中で、他のことにも挑戦してみたいという気持ちが起きました。介護士の仕事は収入もかなり低かったので、これでやっていけるのかなと不安も正直ありました。

介護の仕事をしている時に会社が倒産するという経験をしました。家庭や守るものがある人達は辞めて次を探すというように動きましたが、この施設には未だ高齢者の方が住んでいましたし、僕は独り身で守るものもないので、最後までいてその後に自分の道を考えることを選択しました。結果的に新しい経営者が入ってきて会社を立て直して利用者もそのまま居住して良いことになりました。新しい経営先はフランチャイズ元で、運営方法が利用者さん中心ではなかったような環境でした。働く中で疑問が強くなり、それが物売りなどのビジネスなら良いのかもしれませんが、人の手を借りながら生きることを余儀なくされている方々を、強くビジネス視点で見るとするのはもう耐えられないと思いました。利用者さんが好きで長く働いていましたが、いよいよ自分のことを考えて最後疲れ果てて退職したという感じです。

今こうして話してみると、仕事イコールお金みたいなことが自分は苦手なんだなと感じます。スカイでの仕事が上手くいかなかった時に「必要なことをしていたらお金はついてくる」というアドバイスを頂き、自分はその言葉に救われたのだと思います。とは言うもののお金が重要だと言う側面はやっぱりあると思います。お金は別に僕も嫌いじゃないしあれば良いと思いますが、お金の考え方、集め方が大切なのかなと思います。

スカイは、就職などで人の出入りが常に発生します。そうすると新たに利用する方をお迎えすることになります。今年は春先から3人、4人来てくれました。他に選択肢がある中で、最終的にスカイに来てくれたってということが、それがもう率直に嬉しく思いますし、今も通ってくれています。「スカイに来るとこういうことが体験できます」というところは必ず正直に伝えていきます。選んでくれた方が通い続けた時に「あれは嘘だったの?」ってならないように。そのような仕事に対する姿勢を変えずにやるという想いが今の現場の空気を作っているのかなと思います。メンバーの方が「前はダメだったけど、今はなんか違うね」って言ってくれました。現場の声をこれからも大切にしていきたい。率直にそう思っています。

闘え! 藻岩山

シャープペンシルと消しゴム編

いつしか親友を「親方」と呼ぶようになっていた。

相撲が大好きな親友の親方。気がついたら僕は「藻岩山」と呼ばれていた。名寄出身の名力士名寄岩のように闘うことを期待されている。応援の気持ちが強くなりすぎることもあり、たまには喧嘩もするが、いつも僕を心配、応援してくれる。



ノートにいろいろ書いていた。すると、シャープペンシルと消しゴムが気になってきた。



シャープペンシルの替え芯は、2Bの芯が良い感じだった。2Bの芯は、やわらかくてすぐに減る。たくさんノックして芯を出さなくちゃいけない。HやHBの替え芯にも、良さがあることに気がついた。消しゴムで消しやすい。芯があまり減らない。ノックする回数が少ないことに気がついた。

100円ショップで、サイドノック式のシャープペンシル(テクニクリック)というのを見つけた。これは、シャープペンシルを持ちかえなくてノックができた。すごく便利だと思った。キャップを取ると、

重さとかがちょうど良くなる。付いている消しゴムは、大きくてよく消える。このシャープペンシルは、キャップを外すことで、本当の力を出せると思った。ある漫画の中国拳法の達人が、カンフシューズを脱ぐと危険な強さになったことを思い出した。弱点は、持つところがプラスチック。ずっと書いていると手が痛くなる。それでも、ていねいに作られた良いシャープペンシルだと思った。

親方に文房具のことを話すと、親方は文房具にもくわしかった。一緒に旅をした時、親方の筆入れを見たことがある。素朴でよい感じだった。そして、親方の紙に、旅行の予定がシャープペンシルでびっしりと書いてあった。MONO消しゴムを愛用していた。親方らしくて素晴らしい。みんなそれぞれに、自分に合う文房具があると思った。

消しゴムはたくさんある。新しい消しゴムをためしたい。紙に文字などを書いて、消してみる。やっぱり、消しゴムで違いがあった。おもしろいと思った。ある日、近所の薬局に行くと、文房具コーナーがあった。はじめて見る消しゴムを見つけた。プラスチックのケースに入った繰り出し式の消しゴムだった。指先だけで持つ消しゴムよりも、しっかり持つことができた。消しゴムと手が一体になる感じだ。左手でもしっかり消すことができた。すごい! ぼくの消しゴムの旅は、終わったと思った。

消しゴムはなかなか減らない。消しゴムを見ると、気になったら買ってしまおう。今は少し落ち着いたらけれど、やっぱり消しゴムを試したい。

1. プラスくると



人気がないかもしれない。あまり売っていない。持った感じの安定感がすごい。

2. フォームイレーザ



製図用と書いてある。力を入れなくてもさらっと消せてよい感じ。

3. モノワン



手に押し付けてしっかり消せてすごい。よく消える。スターウォーズのライトセーバーみたい。

4. 富士山消しゴム



ものすごくさらっとよく消えると思った。使っていたが、なかなかきれいに富士山の形にならなかった。

5. シード社レーダー



昭和の感じがするケース。日本字消工業会01番。よく消える。黒のレーダーがすごくよく消えた。良い!

6. サンスターハイブリー



ハミガキじゃない。ケースがすぐ動いてしまう。でも良く消える。なんだか応援したい消しゴム。

7. ヒノデワシまとまるくん



会社名ヒノデワシは迫力がある。ガバツと消える感じだ。ノッポのまとまるくんがあった。

8. ペんてるアインまとまるタイプ



濃い文字を消す時が良い。消しにくい感じがまとまる感じがしない。なんか透明っぽくていい感じだ!

9. ダイソーの消しゴム



くり出し式。持ちやすくてよく消える。ステッドラーの消しゴムをより

10. サクラクレパスアーチ黒



ケースがすごく親切だ。力を入れなくてもよく消える。いい感じだ。

11. お磁けし



ケースのデザインがよい。消しにくい磁石でくっつく。たくさんはくっつかない。大相撲デザイン。

12. モノダストキャッチ



紙にくっつく感じ。消しにくいけどよくまとまる。ケースの薄さと大きさが良い。

13. モノタフ



折れ割れ欠けに強い。ケースの切り口が斜めになっていて力が分散。僕もタフになりたいと思った。

15. シードクリアレーダー



あまり消えないなあ〜失敗したと思っていたら、なんとフリクションのペンが消してしまう。隠れた逸品。

14. コクヨレサレプレミアムタイプ



最初は良さが分からなかった。姪っ子にプレゼントしようと思ったが、使ってしまった物なので止めた。使い続けると消し感が確かに『プレミアム』なんだと気づいた! ケースの薄さ大きさが絶妙!

22. ステッドラー消しゴム



23. ブラックジャック消しゴム



16. モノ消しゴム黒 17. モノ学習用 18. アーチ小学生用 19. 激落ちくん

20. プラスエアイン 21. ペんてるアイン軽く消せるタイプ... まだまだある...

観光的・食事レポート & 写真ポイント

いわて・盛岡(2022年5月・春)

STコンパクトコレクション



盛岡冷・ぴよんぴよん亭

《盛岡駅前店・東口》

麺がもちもち食感

コメントがすくないが美味しい!



まだ残ってる昭和時代の駅

盛岡エリア周辺の

仙北町(せんぼくちょう) 駅

昭和時代のようなレトロ風景

いつかこの風景も(日本各地!)

見られなくなるかもしれない!

(写真は2022年5月・春)



ヒトものバス(貨客混載バス)

革新的な交通システム

後部座席部分を転用して物流荷

物スペースを設置?!

新しい構想である!

2015年6月頃、登場!

区間路線バス

いわて・宮古~いわて・盛岡

岩手北バス

(提携・ヤマト運輸)

まだまだ 広がりはずい!



◆旧白石区役所跡地◆

かつて区を中心だった旧白石区役所跡地。戦前は北海道陸軍兵器補給廠の集会場があり、戦後は白石区役所(と、その駐車場)として整備され、白石区ふるさとまつりの会場として地域に親しまれてきました。

この約1万7,697㎡の土地は現在、北楡会とアインHDが取得し、2027年の開業を目指した開発計画が進行中。現在は広い更地で、冬には雪捨て場としても使われています。



◆柏葉会 白石中央病院 跡地◆

カフェ・ヨベル(ヨベルまちづくりハウス)の前で現在は駐車場です。土地はまだ売却されておらず、隣接した倉庫は解体中です。JR白石駅のすぐ近くの一等地です。

病院は1963年に開院し、2024年12月閉院しました。閉院に伴い周辺の調剤薬局・飲食店に大いに影響があったと伺えます。



『石井さん、色々お世話になりありがとうございました。』

石井さん(ヨベルスタッフ)の送別会が9月25日(木)にありました。カラオケでSさんが「いい日旅立ち」、Wさんが「そんな女のひとりごと」、鎌田さんは「家族になろうよ」。T(筆者)は「LOVEマシーン」。Oさん「上を向いて歩こう」。石井さんが「涙そうそう」を歌いました。スカイで作ってくれたオードブルが美味しかった。宴会みたいな感じだった。石井さんの活動動画を見たりして楽しかったです。(筆者は15年在籍しているが)名前と顔が一致しなかったり知らない人もいた。あまり話をした事もない人もいた。アルバムみたいで面白かった(編集してくれたスタッフさんに拍手)。昔のヨベルの写真。石井さんはそ

んなに変わってなかった。BGMが流れていた。歌詞付きの曲だった。動画は吉野さんと鎌田さんの合作だったそうです。

後日、ピザ会もありました。石井さんとは一緒に食べる事が出来なかったが、出来立てのピザは美味しかったです。こねる時《かなり》力をいれました。なかなかまん丸くなかったので難しかったです。



令和7年度夏 主要行事報告

- 6月20日 茶話会
- 28日 きなはれ総会 < 白石区民センター >
- 7月25日 和気藍々(うどん)で食事会 < 篠路 >
- 27日 共栄第一町内会第27回ふれあい夏祭(ヨベル) < 本通公園 >
- 8月08日 コメダ珈琲店でお食事会 < 東札幌五条店 >
- 15日 流しそうめん会を実施 < ヨベル >
- 9月19日 札幌ラーメンすみれでお食事会 < 中の島本店 >
- 25日 石井さん送別会 < ヨベル >
- 30日 第一回ピザ会(石井さんヨベル最終日!) < ヨベル >
- 10月20日 エスコンフィールドを見学
北広島三井アウトレットモールで食事



第27回ふれあい夏祭
ヨベルの出店「ストラックアウト」

2025年度きなはれ総会 (札幌市白石区役所会議室)



動画制作者・自分が製作した動画発表を終えて

緊張せず自己紹介を終えた。前年度や最近ヨベルであった事・メンバーの活動、作業風景について話した。Tさん(新規通所者)がお話をした。Tさんの話に関しては「頑張ってください」というような思いを抱いた。自分が映像カメラで撮影した動画「鎌田さんの1日」が実際に上映された。メンバーに見てもらう事で達成感&満足感があった。上手く制作することが出来たと思う。各メンバーもそれぞれ頑張っていて良いなと思った。また、映像作りをもっと頑張っていきたいと思います。 by ST コンパクトコレクション

懇親会



午前は白石区役所会議室の総会で沢山の真面目な話をおなか一杯味わったあと、場所をスカイに移しBBQをメインとした懇親会で空腹を満たした。この日はとても天気がよく気温も非常に高かったので室内の席が心地よく(※筆者はエアコンの下での交流を楽しみました。)炎天下スカイ駐車場前で肉を焼き続けたスタッフさんには頭が下がります。(特に坂下さん!) 理事長の乾杯のあと、肉が全員にいきわたるまではオードブルが用意されていてそれはあつという間に皆さんの胃の中へ消えました。その後それぞれに交友・談笑しつつ席替えし自由にしていました。普段あまり交流がない方とも話せてメンバーは個々に楽しんでいました。スタッフさん準備調理配膳かたづけ等ありがとうございました。

第27回ふれあい夏祭 (札幌市白石区共栄第一町内会主催)



ヨベルはストラックアウトの出店と焼き鳥のお手伝いで参加しました。地域の子供達も多数参加され、大変盛況でした。写真左奥のカラフルな衣装の方が永原町内会長さんです。人と人との繋がりを大切に、安心・安全・快適に過ごせる地域づくりに大きく貢献されている方です。特に冬季間の除雪には多大な尽力をされています。いつも地域のことを気にかけて頂き、大変感謝しております。詳しくはきなはれ広報誌第6号にインタビュー記事を掲載しておりますので、是非お読み頂き、地域に対する想いに共感して頂ければ幸いです。

◇ 編集後記 ◇

- ◆いろいろな指示があって大変だった。特にピザをこねるのが大変だった。ピザおいしいのが食べれてよかった。石井さんの似顔絵が難しかった。だけど何とか描けたのでよかった。(○野)
- ◆①親方から『ロンドン公演(相撲)お疲れ様です(笑)』と連絡が来ました。ひさしぶりにびっくりしました。
- ◆②親方から「全国鉄道地図帳」と「旅のつばくろ」という本を教えてもらいました。本の帯には「足踏みばかりの日々は、明日の旅のための準備だったのかもしれない——今が時だ。旅へ」と書いていました。旅へ行きたくなりました。(藻岩山)
- ◆写真関係に協力(基本標準)出来た!ピザ美味しい。朝から撮影しました!<STコンパクトコレクション>
- ◆事あるごとにリクエストされる『卵焼き』! 大好きという訳ではない評価に驚嘆!!(○江)

